

櫛引地域審議会 提言書

平成25年12月16日

はじめに

南庄内の6つの市町村が合併し、新鶴岡市が誕生して既に8年が経過いたしました。

この間、新市の一体感の醸成に努めつつ、鶴岡ルネサンス宣言にもとづく各種施策を積極的に展開され、新しい鶴岡市がめざすべき都市像の実現に向け、ご尽力されておりますことに衷心より敬意を表するものであります。

櫛引地域審議会では、平成23年12月の前回の提言以降、新たな協議テーマを定めて協議を進めてまいりました。前回の提言での「行政の積極的な婚活支援の推進」要請では、直ちに市の総合計画実施計画にも盛り込みいただき、全市的に事業展開をいただいたことで、市内での婚活イベントの開催は、近年飛躍的に増加している状況もあります。また、「伝統芸能の保存伝承支援の拡充」については、黒川能面装束図譜発刊への支援も含め、具体的な事業展開がなされていることに大きな期待を寄せるものであります。

その一方で、少子高齢化と相まって進学や就職のための人口流出は依然として大きく、平成17年度末に8,324人であった櫛引地域の人口が、昨年度末には7,699人と7.5%減となり、将来人口推計によれば、平成22年国勢調査での櫛引地域の人口7,794人が、その20年後の平成42年には22.9%減少するとの厳しい予測もあります。

このたびの提言は、こうした人口減少を踏まえつつ、家族構成の変化や価値観の多様化などにより、集落機能の衰退が危惧される中であって、単位自治組織の維持を基本にしながら、その機能を補完しつつ、地域全体の課題に住民主導で取り組める櫛引型の「広域コミュニティ組織」について、当審議会の協議テーマの一つとしたところであります。

また、新市の一体感の醸成については着実に進展している一方で、櫛引地域としての多様な資源や特性を生かし、地域としての活力や求心力を高めていくための賑わいの創出のためにも、広域コミュニティ組織が新たな地域活力を引き出す原動力の一つになるよう、前回の提言書と併せ、行政の具体的な地域振興施策として反映していただけるよう強く希望するものであります。

平成25年12月16日

鶴岡市長 榎本政規 様

櫛引地域審議会 会長 渡部俊美

目 次

I 地域振興に関する提言

提言1 広域コミュニティ組織形成へ向けた積極的支援

【現状と課題】	1
○集落を単位としたコミュニティ組織形成の経過	
○広域コミュニティ活動の必要性	
【課題解決に向けた提言】	2
○櫛引型の「広域コミュニティ組織」組織構成の単位	
○地域活力を引き出す広域コミュニティの組織づくり	— 3
○従来の単位自治組織への支援の継続	
○広域コミュニティ組織の活動拠点への配慮	
○単位自治組織支援への庁舎の体制整備	

提言2 住民参画型の賑わい創出に向けて

【現状と課題】	4
○櫛引地域の賑わいの現状	
【課題解決に向けた提言】	4
○価値ある地域資源を地域全体で活用した賑わい創出	
○丸岡城跡と加藤清正・忠廣ゆかりの歴史遺産継承の取り組みによる交流人口の拡大	— 5
○櫛引の食文化を生かした地域振興	
○櫛引夏まつりや水焰の能等の櫛引固有イベントの継続支援	
○観光やグリーン・ツーリズム推進の更なる強化	
○高齢者がいきいきできる支援の充実	— 6
○若者が活躍し元気を出せる施策の充実	

II 櫛引地域審議会の開催状況 7

III 櫛引地域審議会委員名簿 8

I 地域振興に関する提言

提言 1 広域コミュニティ組織形成へ向けた積極的支援

【現状と課題】

●集落を単位としたコミュニティ組織形成の経過

櫛引地域の原型は、昭和29年12月に山添村と黒川村が合併して櫛引村が誕生してできたものであり、当時は44の集落によって構成されていた。

櫛引村は、物理的な境界である赤川を挟んでの新設合併村であり、速やかに旧両村の一体的融和統合を図るべく、合併後、新役場庁舎の建設や統合中学校建設にも直ちに取り組むとともに、各団体の合併についても積極的に進めてきた経緯がある。

それと併せ、集落の統合についても行政側が積極的に関わりながら進めてきたことで、現在の単位自治組織数である21集落にまで集約され、平成の大合併による新鶴岡市の誕生にあっても、合併旧町村の中では櫛引地域が最も集約された単位集落数となっており、コンパクトな地勢と併せ、櫛引地域の行政事務執行上も効率化が図られてきたと言える。

また、この単位自治組織は、長年の各集落の努力によって形成され定着してきており、その拠点となる集会施設(自治公民館)もそれぞれ有していることから、櫛引地域の身近な自治会活動は、現状の21の単位自治組織が今後においても基本にしていく単位となっている。

●広域コミュニティ活動の必要性

櫛引地域の21の単位自治組織は、27戸の集落から370戸の大規模集落までであるが、それぞれの集落が行政事務執行上も行政直結型で進められてきた。そのため行政施策の情報が、地区の代表である区長や各役員を通じて、地域の末端まで迅速に届きやすいというメリットがあるほか、各地区の行政に対する要望等についても区長が地域の声を受け止めて、それを直接行政に届けやすいという特徴がある。

一方、櫛引地域全体として見た場合には、区長会をはじめとする地域内の各種団体が分野ごとに議論する場はあるものの、各団体の代表が一堂に会し櫛引地域全体のことを

多様な角度から議論し、具体的な活動につなげて行くための組織がないことから、団体間の連携・協力による相乗効果や新たな活動に発展しにくい状況がある。

区長会では、行政の諸課題や集落共通の課題などについて協議や、情報交換をする場が持たれており大きな役割を果たしてはいるが、今後は、櫛引地域全体として自治組織が、社会福祉・安全・防災・環境・生涯学習などの地域づくりを、各団体や組織が連携し地域住民の意見を集約しながら、地域住民と行政が協働して進めていくことが必要とされている。

そのためには、地域コミュニティにおいて地域の課題やその解決方法が共有されるとともに、多様な地域団体の参加による、地域としての合意形成や意思決定が行われていく「場」や「仕組み」が重要となってくる。

急速な人口減少をはじめとして、今後社会状況が大きく変化していく中で、今後も櫛引地域の地域運営を持続・発展させていくためには、現在の21地区の単位自治組織をベースとして、櫛引地域の多様性を生かし、住民の活力を結集しながら地域づくりを進める基盤となる広域的な組織づくりが求められている。

【課題解決に向けた提言】

●櫛引型の「広域コミュニティ組織」組織構成の単位

櫛引地域に広域コミュニティ組織を作っていくことを展望した場合、その組織構成の単位は小学校区ではなく、中学校区単位での組織化が望ましいものと考えられる。もともと、櫛引地域には小学校区単位での組織は、その学校関係の組織のみしかないこともあり、その拠点施設をどうするかということも含めて考えた場合、小学校区単位での組織化は現実的ではない。

櫛引地域は、公設公民館一館体制に馴染んでいる地域でもあり、そこを拠点にした中学校区単位の広域コミュニティ組織が、地域の住民代表的な組織として意思決定を行うとともに、櫛引庁舎の行政機能との連携協力のもと単位集落での取り組みが難しい事項について新たな取り組みを進めつつ、単位集落の補完機能的な役割を果たすことができるものと思われる。

さらには、中学校区単位の組織にして人的体制と財政基盤を整えていくことで、住民主導による広域コミュニティ組織独自の事業展開も可能になると考えられる。

＜具体的方策＞

▼地域活力を引き出す広域コミュニティの組織づくり

市町村合併をし、鶴岡市の一地域となった現在では、地域の求心力の核となるべき組織は、住民主導の広域コミュニティ組織であり、行政との緊密なパートナーシップを構築しながら、単位自治組織の支援や新たな地域活力を引き出す原動力の一つになっていく具体の事業を行っていく必要がある。

そのためには、広域コミュニティ組織に自由度のある交付金等により支援していくことや、組織自体で雇用する職員体制に加えて、組織運営を軌道に乗せるための市職員の人的支援も必要と思われる。

▼広域コミュニティ組織づくりへの支援の強化

櫛引地域に広域コミュニティ組織を作っていく場合にあっては、準備組織を立ち上げ詳細を検討していく必要があり、その前段として、他地域の広域コミュニティ組織の現状把握や、各組織の代表者だけでなく各組織の役員への十分な情報提供などが必要であることから、既存の広域コミュニティ組織活動の実地研修や調査など必要な準備活動への十分な支援を行う必要がある。

▼従来の単位自治組織への支援の継続

若年層の減少、高齢者世帯の増加など集落構成世帯の変化に伴い、自治会活動の維持に係る住民負担の増加が懸念されている中、単位自治組織においては、それぞれ異なる課題への対応が必要であることから、集会施設の修繕等ハード面や運営活動費等ソフト面での支援を継続していく必要があり、財政支援の総合交付金化にあっても、結果的に住民負担の増とならないような方向での調整が望まれる。

▼広域コミュニティ組織の活動拠点への配慮

コミュニティ基本方針では、櫛引・温海の公設公民館は当面従来どおりとなっているが、現在、地域公民館がある地域では、拠点施設の「地域活動センター」化を図るとされている。将来、櫛引型の広域コミュニティ組織の姿を描いていくには、その活動拠点

のあり方も並行して協議する必要があることから、他地域の「地域活動センター」化の進捗状況や協議経過などを参考にすることができるよう十分に配慮する必要がある。

▼単位自治組織支援への庁舎の体制整備

行財政改革が推進されている中ではあるが、異なった地域課題を持つ集落ごとに、個別に支援・指導できる体制と、住民サービスに直結する行政事務の各分野の窓口機能は、引き続き地域庁舎に設置していくことが必要である。

提言 2 住民参画型の賑わい創出に向けて

【現状と課題】

●櫛引地域の賑わいの現状

櫛引総合運動公園やスポーツセンターは、従来から他地域を含め広域的に利用されていたが、合併後は、人口が減少している中であっても、各種大会の開催や利用者数が増加している状況もあり、施設周辺の賑わいに繋がっている。

また、櫛引の観光果樹園にあっては、初夏のさくらんぼ狩りに始まり秋のぶどうやりんご狩りまでその入り込み数も年々増加し、鶴岡市の観光資源としても大きく注目されており、その情報発信面で大きな役割を果たしている「産直めぐり」については、庄内でも有数の農産物直売施設として通年で賑わっている状況にある。

今年で3回目の開催となった、水焰の能の特設会場を活用する「くしびき夏まつり」の開催は、JA庄内たがわ・出羽商工会・櫛引観光協会・櫛引工業団地振興会が連携して主催し、多くの地域民が一同に集い賑わいをつくりながら地域民であることの絆を確認できる良い機会になっている。また、第30回の節目の開催となった水焰の能については、今後の新たな展開の可能性や開催手法も含めた検討を行いつつ、今後も開催していくことが必要と思われる。

イベント開催の意義を高めるためには、地域住民の参画が大切であり、将来的に広域コミュニティ組織ができた場合には、この組織が住民参画型のイベントを主催したり、また、従前の伝統行事等への支援を行うことで、広域コミュニティ組織の求心力が高まることにも繋がるものと考えられる。

【課題解決に向けた提言】

●価値ある地域資源を地域全体で活用した賑わい創出

櫛引地域には、黒川能をはじめとした伝統芸能や文化財、下山添の流鏝馬や上山添の奴振り、各集落に残る天狗舞・獅子舞等々の伝統行事、丸岡城跡をはじめ六十里越街道など多くの史跡・遺構がある。また当地域出身人物では、横綱柏戸関をはじめとして東荒屋出身の言語学者齋藤秀一など著名な人物も輩出し、彫刻家の富樫実氏は国内のみならず海外でも活躍中である。また、伝統ある農業を基盤とした多様な作物や豊かな食文化があることも地域の特色となっている。

これらの価値ある地域資源の多くは、地元の集落や関係者を中心に大切に受け継がれて来てはいるものの、更に櫛引地域全体で改めてその価値を掘り起しながら、地域全体で共有し支援していくという形で、新たな地域活動へ繋げていく必要がある。

そのためには、企画・準備段階から多様な分野の住民が参画し、多くの人たちが汗を流しながらつくりあげること、櫛引地域としての求心力を高めるとともに、新たな魅力による地域外からの交流拡大にも繋がる取り組みとしていくことが必要である。

<具体的方策>

▼丸岡城跡と加藤清正・忠廣ゆかりの歴史遺産継承の取り組みによる交流人口の拡大

丸岡城跡史跡公園内に、歴史遺産継承のための資料を展示公開するガイダンス施設整備が予定されており、これを契機にした観光振興が地域活性化や新たな賑わいにもつながるよう、ボランティアガイドの更なる育成や、地域の歴史学習をとおした次世代の郷土愛醸成につなげていく取り組みを支援する必要がある。

▼櫛引の食文化を生かした地域振興

市の重点施策として進められている「食文化創造都市の推進」に併せ、より地域全体にその取り組みを波及させながら、黒川能にまつわる伝統料理や櫛引地域の食文化の掘り起し、その提供による交流人口の拡大や地産地消の推進を含めた地域活性化事業を検討していく必要がある。

▼くしびき夏まつりや水焰の能等の櫛引固有イベントの継続支援

多様性を活かした地域づくりにあっては、核となるイベントの開催が不可欠であり、

観光誘客イベントとしての取り組みだけではなく、賑わいの場としての地域振興や伝統芸能の貴重な発表の場としての側面からも、地域固有イベントを継続して支援していく必要がある。

▼観光やグリーン・ツーリズム推進の更なる強化

交流型の観光やグリーン・ツーリズムの推進にあっては、鶴岡市全体を一体のエリアとして捉え、誘客施設の連携強化を図る組織や窓口を充実強化するとともに、農業体験の受け入れや、援農やワーキングホリデー等の受け入れの仕組みづくりを検討し、あわせて雇用創出を図っていく必要がある。

▼高齢者がいきいきできる支援の充実

櫛引地域は三世代同居家庭が比較的多く、農業生産や地域活動にあっても高齢者が大きな役割を果している。健康寿命を延ばしながら、各方面で高齢者に活躍をしてもらうことが、地域の活性化にもつながるものであることから、敬老会など高齢者が集う機会に、より多くの参加者が交流できるよう支援を充実させる必要がある。

▼若者が活躍し元気を出せる施策の充実

青年層の減少や就業形態の変化、価値観の多様化から地縁による青年層の組織化を進めることは難しい状況にはあるが、消防団活動や地域の伝統芸能継承等で若者が大きな力を発揮している状況もある。より多くの若者のスポーツやボランティア・各種講座やイベント等へ参加促進を図ることで、地域活動への参画にも繋げられるよう積極的に支援するとともに、未婚化や晩婚化の抑制のために、婚活支援事業についても更に充実していく必要がある。

Ⅱ 櫛引地域審議会の開催状況

平成24年度

回数	開催日	内 容
第1回	5月31日	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度予算及び主な事業の概要について 提言内容を踏まえた今後の事業計画等について 平成24年度の地域審議会の進め方について 機構改革に伴う4月からの地域庁舎体制の変更について
第2回	8月1日	<ul style="list-style-type: none"> 会長・副会長の選出 学校適正配置について 協議テーマの設定と今後の進め方について
第3回	10月10日	<ul style="list-style-type: none"> 櫛引地域審議会の協議テーマについて
第4回	11月21日	<ul style="list-style-type: none"> 鶴岡市総合計画実施計画の策定について 鶴岡市地域コミュニティ基本方針の策定について 地域協議テーマについて
第5回	2月13日	<ul style="list-style-type: none"> 櫛引庁舎の平成25年度重点施策の概略について 地域協議テーマについて <p style="text-align: center;">- これまでの議論の中間的整理 -</p>

平成25年度

回数	開催日	内 容
第1回	5月30日	<ul style="list-style-type: none"> 会長の選出 平成25年度予算及び主な事業の概要について 地区担当職員制度について 平成25年度の地域審議会の進め方について
第2回	8月26日	<ul style="list-style-type: none"> 委員・職員合同研修(地域活性化研修-講演聴講-) 演題:「農村で人と人をつなぐほんもの体験観光で地域を元気に！」 地域協議テーマについて
第3回	10月3日	<ul style="list-style-type: none"> 櫛引地域審議会提言書の検討について
第4回	11月22日	<ul style="list-style-type: none"> 鶴岡市総合計画後期計画の策定について 櫛引地域審議会の提言書(案)について

Ⅲ 櫛引地域審議会委員名簿

任期：平成24年7月1日～平成26年6月30日

役 職	所属団体名等	所属役職名 または職業	氏 名		備 考
会 長	櫛引区長会	会 長	前 田 勝	渡 部 俊 美	H25. 5. 30付交代
副会長	櫛引地域婦人会	会 長	齋 藤 ゆう子		
委 員	櫛引自治公民館連絡協議会	副会長	小野寺 雄 司		
委 員	鶴岡市黒川地区農業村落振興会	会 長	秋 山 文 雄		
委 員	庄内たがわ農業協同組合	理 事	成 田 新 一		
委 員	株式会社産直めぐり	取締役	上 野 重 和		
委 員	出羽商工会櫛引支部	代表理事	渡 会 昇		
委 員	櫛引観光協会	会 長	澤 川 宏 一		
委 員	(鶴岡市社会福祉協議会)	(副会長)	佐久間 泰 子		
委 員	(櫛引地区民生児童委員協議会)	(会 長)	秋 山 武 彌		
委 員	櫛引PTA連合会	会 長	上 野 博 之	工 藤 治 樹	H25. 5. 30付交代
委 員	櫛引体育協会	会 長	佐久間 忠 勝		
委 員	荘内加藤清正公忠廣公遺蹟顕彰会	会 長	松 浦 安 雄		
委 員	鶴岡市老人クラブ連合会 櫛引支部	支部長	今 野 慎太郎		
委 員	鶴岡市消防団櫛引方面隊	隊 長	伊 藤 信		
委 員	識見者	大学非常勤 講師	成 田 勇		松根塾・塾長
委 員	識見者	農 業	森 薫		ふるさとむら宝谷運営 管理組合・組合長
委 員	識見者	農 業	齋 藤 美 恵		農家民宿権太郎主宰
委 員	識見者	農 業	清 和 ふみ子		鶴岡市消防団女性消 防隊・隊長
委 員	識見者	建築士	今 野 亨		今野亨建築設計室代表

()の表記は、平成25年12月9日現在では前職

